

## 「令和元年度学校関係者評価」の実施結果と今後の課題について

1. 学校法人新潟総合学院 国際情報工科自動車大学校における「平成 30 年度自己点検・評価」は、令和元年 7 月 1 日に前年度の点検評価結果に係る改善内容も視野に入れ、自己点検・評価を実施し、令和 3 年 3 月 12 日に学校評価委員会 4 名（欠席 1 名）に対し学内職員 4 名で報告を行い、本書のとおり報告書をまとめた。  
本校の自己点検・評価については一般社団法人全国専門学校教育研究会の策定した、自己点検・評価報告書「作成ハンドブック・作成マニュアル」を基本に進めた。
2. 全国専門学校教育研究会版「作成マニュアル」の自己点検・評価基準をベースに、自己点検・評価を行い、その結果を根拠資料と共に提出。その過程において、不備な点等の改善について、今後の方向性を協議するとともに、次年度以降の取り組み課題とした。
3. 今後の課題として、令和元年度学校関係者評価を受け一定の方向性を持って、学校評価を進めて行くことにより、本校における質の保証・向上のなお一層の取組充実が図れるよう努めていきたい。

## 学校関係者評価報告書（「学校関係者評価委員会」報告）

### 1 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

#### 1) 教育理念（建学の精神）

##### （教育理念）

「将来の職業に関する高い専門能力を追求しながら単に知識・技術教育に偏ることなく、広い視野と豊かな人間性を持った、創造性に満ちた人材育成の場」であることを教育の基本理念とし、常に変化していく時代に即した工学系専門教育機関として、地域社会の振興はもとより、国際社会の発展に寄与するものである。

#### 2) 教育目的・教育目標

教育理念（見学の精神）・目的・目標は他者が確認できる状況を構築しており、1 から 4 は達成している。

改善点としては、項目 5 学外教育計画の公表に関してできているのが職業実践専門課程認定学科のみなので、全学科の教育計画を作成し公表するよう推進する。

#### ■評価委員からの意見等

「1 建学の精神・教育理念・教育目的・教育目標」についての意見等はなかった。

## 2 教育の内容

### 1) カリキュラム作成等

昨年度に引き続き、カリキュラム編成、シラバス作成は滞りなく計画的に実施されているので継続して取り組む。

6 項の「コマシラバス」に関して必要な学科については作成を進め対応していくが基本、学生の能力に合わせた学習進度を優先としたい意向もある為、週シラバスを基本とした学習計画で進捗管理を進める。

### 2) 学習プロセスの改善

毎年行っている「学生アンケート」を計画的に実施して指導・改善していくことはもちろんのこと、評価の結果を授業改善に活かすという観点から、管理職によるフィードバックの実施を今後も継続し、教育の質向上に努める。

### 3) 業界ニーズに対応した付加的教育

企業・行政との連携も大切であるが、地域と連携を図ることが今後重要になる。内容を精査し地域と連携した授業展開を構築する。

### 4) 教職員の資質の維持や向上

教員の研修については計画的に実施され、各業界の新技术研修会にも参加している。継続して研修を実施し質の向上に努める。

#### ■評価委員からの意見等

「コマシラバス」に関しては時間ごとにシラバスを区切ると学生に合わせた進度で授業を進める事が困難なため必要性は無いとの意見を頂いた。

## 3 教育の実施体制

### 1) 教育環境の整備・活用

ほぼ適正に整備されている。なお、今後の課題としては ICT 利活用による教育の IT 化を強力に推進する。アプリケーションソフトによる学生、教員間のコミュニケーションツールやクラウドライブラリーを整えて教育の環境をトータル的に整備する。環境・エコ活動にも積極的に参加できる仕組み造りを構築させる。

#### ■評価委員からの意見等

環境・エコ活動についての取り組みは重要であると考えます。学生と一緒に授業として取り組むことはどうかとの意見があった。

## 4 教育目標の達成度と教育効果

### 1) 教育目標の達成に係る取組と評価

目標設定・共有・記録・今日票については適正に行われている。

20 及び 21 の項目については過年度からの課題であるが、基本的に元担任より SNS による確認及び後追い企業訪問を中心とした卒業生状況把握を推進して公表に繋げる。

#### ■評価委員からの意見等

「4 教育目標の達成に係る取り組みと評価」についての意見等はなかった。

## 5 学生支援

### 1) 保護者会及び企業の会設置について

入試から入学・在籍まで基本的な学生支援は構築できている。

なお、18～22 の項目に関しては同窓会と連携を図りながら支援活動を拡大させる。

課題としては保護者の会、企業の会をニーズ調査しながら設立に向けた検討を継続する。

#### ■評価委員からの意見等

「5 学生支援」についての意見等はなかった。

## 6 社会的活動

5 に関しては教育課程編成委員会による意見集約を中心に職業教育カリキュラムとの整合性を図り、学生ボランティア等を含めた社会貢献活動の評価を単位認定とする制度構築の検討していく。

#### ■評価委員からの意見等

他校も単位認定している学校は少ない。専門的な知識・技術の修得を単位認定とすることが一般的で、ボランティア等の単位認定は難しいため、授業の一環として地域活動に取り組むことはどうかとの意見があった。

## 7 管理運営

基本的な管理・運営体制は確立されている。

### ■評価委員からの意見等

「7 管理運営」についての意見等はなかった。

## 8 財務

予算計画、執行、会計において公正に運営されている。

### ■評価委員からの意見等

「8 財務」についての意見等はなかった。

## 9 改革・改善

自己点検・評価は平成 25 年度より継続しており、報告書の作成と共に、毎年適正に HP で公表している。

### ■評価委員からの意見等

「9 改革・改善」についての意見等はなかった。

以上

### ◆学校関係者評価委員

- ・自動車整備振興会 専務理事
- ・IDGA日本 副理事長
- ・日本建築家協会東北支部
- ・福島県消防設備協会（欠席）
- ・福島大学 教授

### ◆学校側報告者

- ・学校長 和田 秀勝
- ・事務局長 鈴木 詩織
- ・教務部長 阿部 一則
- ・教務部長 鈴木 友二